

Contents

1) 健康心理学コラム vol. 70 増田真也 (慶應義塾大学)

1) 健康心理学コラム Vol. 70

「日本人は不幸なのか? 再び」  
増田真也 (慶應義塾大学)

京都橘大学の田中芳幸先生が、「日本人は不幸なのか?」というコラムを vol.55 で書かれているのですが、このことに関連した筆者の研究を紹介させていただきます。

日本人は幸福ではないという報告は大抵、「とても不幸」を 0, 「とても幸福」を 10 で尋ねたときの、7 点以上の回答者の割合で示されています。しかし回答分布を見るとどれも、7 (もしくは 8) 点と中間 (5 点) が突出しています。これを見ると、日本では幸福感が中程度の人が多いため、高い人の割合が相対的に小さくなるということになります。しかしながら、「この項目では 1 を選んでください」といった特定の回答の指示をする項目を含めたところ、指示に従わない (つまり項目文をきちんと読んでいないと思われる) 回答者で中間選択が多いことがわかりました。さらにその後の研究で、自分が幸福かどうか考えたことが無いという人を除いたり、回答前に「私は真面目に回答します」という文章にチェックしてもらっても、同様の結果が得られました。つまり、「日本人は不幸」という調査結果が得られる理由の一つは、回答意欲の低い人が中間を選ぶため、そうした人を除くと、幸福感の高い人の割合は増えるのです

(Masuda et al., 2017)。実は、複数項目からなる心理尺度でも (というよりだからこそ)、同様の問題によって平均得点や因子構造が変わるようです (増田他, 2016 ; 2017)。多くの研究で同じ結果が得られても、それは正しいからではなく、同じ測り間違いを繰り返しているだけなのかもしれない、という疑念と不安が私の中でますます強まっています。

文献

増田真也・坂上貴之・北岡和代・佐々木恵 (2016). 回答指示の非遵守と反応バイアスの関連. 心理学研究, 87, 354-363.

増田真也・坂上貴之・北岡和代 (2017). 多くの項目に回答することによる中間選択の増加. 行動計量学, 44, 117-128.

Masuda, S., Sakagami, T., Kawabata, H., Kijima, N. & Hoshino, T. (2017). Respondents with low motivation tend to choose middle category: Survey questions on happiness in Japan. *Behaviormetrika*, 44, 593-605.

-----  
日本健康心理学会広報委員会

<http://jahp-public.blogspot.jp/>

メールマガジンの配信停止, アドレス変更は下記アドレスまで

日本健康心理学会事務局 <[jahp-post@bunken.co.jp](mailto:jahp-post@bunken.co.jp)>

メールマガジンへのご意見・ご感想は下記アドレスまで

広報委員会 <[jahp-ML@bunken.co.jp](mailto:jahp-ML@bunken.co.jp)>

過去のメールマガジンは, こちらからご覧いただけます

<http://jahp.wdc-jp.com/health/health1.html>